

「ふるさとを愛し 夢を育む 賢く優しくたくましい子」

- ・(ひ) 人の話をしっかり「きく」ことのできる子
- ・(や) やさしく 思いやりのある子
- ・(く) くじけず 最後までがんばる子
- ・(た) たくましく 健康な子



<http://www.hyakuta.m-alps.ed.jp/>

## 急な変更への対応ありがとうございました

県内の新型コロナウイルス蔓延状況を鑑み、6月10日に県知事より「新型コロナウイルス感染防止への臨時協力要請」が出され、その中で6月20日までの催し物（行事）や会議等の開催の延期や中止が要請されたため、学校行事や学年行事（校外学習）、説明会などの日程を急遽変更させていただきました。要請期間が過ぎたとはいえ、まだまだ安心できる状況ではありません。学校では今後もしっかりと感染対策を続けながら、無理をしない形で教育活動を進めて参ります。ご家庭でも十分にご注意ください。



今回の措置において、延期していた校外学習などは相手と打ち合わせる中で、6月28日以降順次計画しているところです。また体力テストにつきましても、同じ週より感染対策や密防止を徹底する中で、残りの測定をしていく予定でいます。事前健康調査票をご記入いただくことでもありますので、どうぞご理解下さい。



## 命を預かることの重さ

新型コロナウイルスの感染状況を毎日確認し、その対応や対策に気を配り・・・そんな日々がもう1年以上も続いています。子供たちの安全を守ることや命を預かることの重さをひしひしと感じる毎日です。地震や火事、大雨や雷、交通事故や学校事故、不審者対応など挙げればたくさんの危険が身の回りには存在します。職員一丸となり、リスクマネジメント・クライシスマネジメントを行いながら教育活動を進めております。



本校では、今年度になってからここまで3回の避難訓練を行いました。5月18日に地震を想定した訓練を、また28日には保護者の皆様にご協力を得る中で南海トラフ地震発生を想定した小中合同の引き渡し訓練を、さらに、6月10日には火災を想定した訓練を行ってきました。どの訓練においても、真剣に臨む児童の姿が見られました。今後も、予告なしの訓練を含め、避難訓練を繰り返して行っていく予定です。



さて、2011年の東日本大震災の時のことです。埼玉県のある校長先生が次のような体験話をされました。

「まだ全員が学校にいました。すぐ校庭に避難させ、訓練通り整列、点呼し、全員の無事を確認しました。余震が続いていましたし、校舎も耐震工事が終わっていなかったため、そのまま校庭で待機しました。このまま待機させるか、帰宅させるかの判断は難しいものがありました。しかし、そうしているうちに薄暗くなり始めました。寒さも増す一方です。帰宅させよう、そう決断しました。一斉下校の形で通学班ごとに教員がついて行って、全員を無事帰宅させることができホッとしました。」

さらに話は続きます。

「そこまではよかったです。翌日になって、けっして学校を責めるという口調ではないのですが、交通がストップしてしまったため、親が帰宅できず一人で真っ暗な中ひと晩過ごした子供たちがいたことを何人かの PTA 役員から聞きました。あのまま学校に残すべきだったのか…未だにはっきりと結論は出ませんが、それにしてもこれほど命を預かっている重み、管理職の責任の大きさを痛感したのははじめてでした。その後、眠れない夜が続き、とうとう胃に穴があきました。自分ではけっして精神的に軟弱だとは思っていないのですが……。」

この立場になると、身につまされる話です。この場合、何が正解だったのでしょうか。さまざまな立場や状況があるので、一概には言えず難しいものです。

本校（御勅使中学区）では、**震度5以上の地震発生時には、訓練同様引き渡しとなります。**通信手段も限られてしまいますので、起きてはならない（起きてほしくない）災害ですが、万が一の時にはよろしく願います。また、大雨・強風・大雪等の警報発令時の対応につきましては、お配りしてある資料をいま一度ご確認ください。これからも保護者の皆様のご協力を得ながら、安全・安心な学校づくりに心して臨んで参ります。



自転車の乗り方、ヘルメット着用、危険な遊びをしない、暗くなる前に帰る、「いかの おすし」、災害時の初期対応など、ご家庭でも子供たちへのご指導をお願いいたします。

### 【児童の姿】



〔朝顔のたね植え〕



〔毎日の朝顔の世話〕



〔2年生との交流会〕

入学から2か月半、すっかり学校生活にも慣れてきた一年生。毎日元気に過ごす姿が見られます。大切に育てている朝顔も、元気につるを伸ばしています。